



校則の在り方が注目を集め、中、小学生自身がルールを決め自分で考へて更新する取り組みを、大阪の教育機関「箕面こどもの森学園」(箕面市)が実践している。自身のコミュニケーションに対する積極的に発言する姿勢を養い、自分たちで決めたからこそ守るうつとする自律性を育んでいる。

認定NPO法人運営の同学園は、学習指導要領にとらわれない運

箕面こどもの森学園

當で法定の「学校」ではないが、学習計画から学園のルールまで子どもたちが主体的に決める仕組みを徹底。教育内容とともに、持続可能な社会づくりに役立つと、国連教育科学文化機関（ユネスコ）からユネスコスクールに認定されている。

■全員で「納得」

同学園では、学校全体にかかる案件は、週1回の全体集会で議案として出す。児童約50人と、一般の学校で

議論に当たる「スタッフ会議」は、10人弱が全員で意見交換し、必要に応じてルールを決めて解決する。一人の意見を巡り皆議論。少数派の意見は無視せず、全員が納得するまでの答えが出るまでやりとりする。多数とは決めないため、時間がかかる際には翌日持ち越し、結論がなければルール化されない場合もある。

童から「ゲーム機は将びたい」と意見が話す

ときは、大人も交議論が白熱。大人視力や成長期の脳「くない」と主張し、「児童の思いも強めた。意見をすり合った結果、月1回持める日を設定するで合意した。

月に卒業した下間さん(12)は「公立全部先生が考えてせるが、多くの意見にしていくの皆で話し合って「来役立ちそう」とていた。

児童自らルール作り

■「思考停止」防げ

あつた

一七年度二月

発言する姿勢、自律性育む

■思考停止 防げ
決めっぱなしにしないのも重要。児童は毎学期、自分がルールを守れたかを振り返り、チェックする。守安あゆみ副代表理事は「自分たちで決めたから」ソルールを守るようになり、安全や安心が保たれる」と分析する。
ただ、困ったことも起きた。ルールを作り続けた結果、2016年度には100項目を超えるまでになった。児童らは盛り込まれて児童らは盛り込まれている内容について、守らなければならぬ理由まで考えず、「ルールだから」と思考停止になりかけている面が

あつた。
そこで17年度には、内容の整理を担当する「ルール委員会」を常設。今は必要なかつたり重複している内容を児童とスタッフで議論し、約50項目にまで減らした。

守安副代表理事は「議論では、勝ち負けではなく、皆が納得できる道を探るようになつていて。自分も話を聞いてもらえるから、自分と違う意見も我慢強く聞ける。取り組みが浸透していけば、全ての人が自分らしく生きていく社会になるのでは」と意義を説いている。(加星宙麿)